



神戸国際大学

キリスト教センター通信 第 112 号

2024 年 6 月 4 日

「プーチンを赦せますか」

理事長 司祭 バジル 八代 智

皆さんは「ピロシキーズ」という「ロシア生まれで関西育ちの東京在住ユーチューバー」をご存知ですか？ロシア人男女のコンビでとても面白いトークを毎回アップしてくださり、私は何年も前から彼らの大ファンでした。

そんな彼らが一昨年の 224 以降、めっきりふさぎ込んでしまいました。ロシア人の自分たちが今お笑い系の動画をアップする気になてなれないと、ロシア人であることの自責の念やウクライナ人へのお詫びの気持ち、そして今自分たちに何ができるのか、何をしなければならないかと 2 年経った今も暗い面持ちで語り続けています。最近では男性の小原プラス君はテレビにも出るようになって、ロシアの非道を訴え続けています。

そんな彼らに対して多くの日本人ファンが「ロシア人みんなが悪いんじゃない。プーチンが起こした戦争だということをもみんな理解しているよ」とか「ロシア人だからとそんなに自分たちを責めないでね。これからも面白い動画をどんどん発信してください」と、優しいコメントを綴っています。

とはいえ今なおロシアによる軍事侵攻は続いているわけで、毎朝毎晩ウクライナの惨状をテレビで目の当たりにしますと、キリスト教の牧師になって 30 年以上のこの私でもプーチンに対する怒りが込み上げてきます。「汝の敵を愛せよ」(マタイ 5:44)との主イエスのご命令は知ってはいても、ウクライナの一般市民に対して虐殺行為を続けているロシア兵やそれを良しとするプーチンをととても許すことはできません。

否、戦死したロシア兵の多くがまだまだ若い 20 代の新兵と言われておりますので、彼らもまた犠牲者なのかも知れません。両国共にこれほど多くの戦死者や犠牲者を出した不毛な戦争の責任者であるプーチンを、それでも愛の神はお赦しになるのでしょうか？今年の大統領選挙で、彼は 5 選目を果たしました。

私たち人間にとって十字架にかけられて人々の罪の贖いとなられた主イエスの御心を知ることが容易ではありませんが、西方教会と東方教会だけでなく、すべてのキリスト者の信仰が今なお問われているように思います。

インド独立の指導者として「非暴力不服従運動」を貫いたマハトマ・ガンジーは有名ですが、彼にまつわるこんな逸話がございます。ある日彼のもとに、一人のヒンドゥー教徒の男がやって来て言いました。「先生、私の息子はイスラム教徒に殺されました。息子の復讐のためにイスラム教徒の息子を殺したのですが、私の悲しみは全く癒されません…」。

それを聞いたガンジーは静かに言いました。「あなたが救われる方法が一つある。イスラム教の両親をヒンドゥー教徒に殺された孤児をあなたの子供として育てなさい。それもヒンドゥー教徒ではなくイスラム教徒として育てなさい」…。



一日も早く世界中の人々に主の平和 (PAX DOMINI) が訪れますように。

ひとくちメモ



左はピースサインですが、右に示した鳥の足のようなピースマークは Nuclear Disarmament (核軍縮) の頭文字 N と D の手旗信号を組み合わせて図案化したものだそうです。ボーイスカウト出身者は知っていましたか…。

この記事は 2022 年 5 月 17 日付の神戸国際大学キリスト教センター通信第 56 号に手を加えて再掲載したものです。